

2019年度 学校経営計画

※【 】は、関連する「第三期中期目標(戦略的中期目標)」の項目番号

I 教育に関する目標・計画

[1] 生徒指導計画

中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策		担当部署
1 自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う。	自由、自主、自立の精神を、シティズンシップ育成の視点から追求し、実践する。【4-2-15】	いじめ防止の取り組みや安全教育の充実を図り、生徒が安心して学校生活を送ることが出来るよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活のハンドブック」について、教員の共通理解を深めると共に、集団生活のルールについて、一致した生徒指導を行う。特に、スマートフォン・携帯電話の使用については、前期課程の届出制度を適切に運用し、問題事象を未然に防ぐように努める。 ・生徒の安全のために、通学路の安全確認や交通安全指導を適切に行う。特に、新入生に対しては、「安全ハンドブック」を利用して指導を徹底する。 ・警察・消防署など関係機関と連携しながら、安全(防災・防犯)指導を実施する。 ・自殺予防(ゲートキーパー)についての教員研修会を実施する。 		各学年 生徒指導
		生徒の自治による自主活動を支援し、学校生活の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行委員会には、生徒の自主活動のリーダーであることを意識づけるよう促す指導を行い、各部会の活動が円滑に進むよう支援を行う。 ・学園祭運営委員会の活動を支援し、第75回学園祭を円滑に実施する。 		各学年 生徒指導
		課外活動等を通じて、学年集団づくりに努めると共にリーダーの育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指針に沿った活動のルールを確認し、新たな自主活動のあり方を生徒とともに追究し、豊かな人間関係を生涯にわたって築くための素養を培う。あわせて外部人材の活用等を積極的に進める。 ・学校行事を円滑に進めると共に、学年の各種リーダー育成を図る。 ・3年スキー行事、5年修学旅行を6年間の「節目」行事と位置付け、生徒の自主性を尊重しつつ進める。 ・奈良大宮ロータリークラブと提携して、インターアクト事業への参加を通して、リーダーシップや国際性、奉仕精神の涵養を図る。 		各学年 生徒指導 研究 学校経営委員会
		対話を重視し、それぞれの生徒の状況をふまえていねいな対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が生徒との対話時間の確保に努めるとともに、4月と10月の「面談期間」を通じて、担任の生徒状況把握を深める取り組みを継続する。 ・生徒及び保護者との対話を重視し、トラブルや問題行動を未然に防止すると共に、適切な事後対応に努める。 ・担任会は、養護教諭やスクールカウンセラーと連携しつつ、特別な支援を必要とする生徒に対応する。 		各学年 生徒指導 健康環境

[2] 進路指導計画

中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策		担当部署
5 自由で自立した人格の育成と社会的責任の自覚を養う。	生徒の適性を尊重しつつ、進路指導体制を強化する。【4-2-13】	生徒のキャリア意識の形成を重視した6年一貫進路指導を計画・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と各学年が連携し、進路HRを計画的に進め、6年一貫教育のメリットを活かした、キャリア意識形成を支援する。 ・ガイダンスや進路適性検査を実施し、キャリア意識形成を支援する。 ・3年生において、キャリアガイダンスを学年と連携して実施する。 ・進路学習ホームルームの総括を行い、内容・時期の再検討を進める。 		各学年 進路指導

6		進路に関するカウンセリング体制を充実させる。	・大学等進学や選択科目の履修についての進路相談を随時行う。 進路指導部・6年担任合同の進路指導会議を年3回実施する。			6年 進路指導
		進路に関する資料を整理し、情報を的確に提供する。	・高大接続文理統合探究コース(PICASOコース)の「基盤探究」を実施しつつ、探究活動に対する評価指標を作成し、大学入試改革に資する資料準備を進める。 ・2021年以降の新制度入試への改革情報を随時説明会等に出席して収集し、全教員および生徒・保護者へ周知するための研修会を持つ。 ・進路情報の収集に努め、生徒に対する提供を適切に行うと共に、進路冊子『フォルトナ』を5月に発行し、進路学習で活用する。 ・生徒・保護者への進路指導に関する事業の周知と、模試データや大学入試に関する情報の速やかな提供を行う。 ・生徒個々の学習活動データや成績等を一元管理できるデジタルポートフォリオ試行・利用し、進路実現に役立てる方法を構想する。			5・6年 進路指導 学校経営委員会

[3] 学習指導計画

	中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策		担当部署
8	生徒の多様な能力に対応した教育を行うと同時に、個性を尊重しつつ学力を伸ばす。	2-2-2制に基づいた先導的な中高一貫教育及び理数教育を推進する。各段階の教育指針に応じた学力の定着をはかる。【4-2-13】	1・2年では、「65分」の枠組みを活用し、基礎基本の習得と共に、基本的な学習習慣の徹底を図る。	・授業にとりくむ姿勢が確実に定着するよう指導し、各教科と連携して学習補充を適宜行うなど、基礎学力の向上を図る。 ・家庭での学習習慣が定着するよう、保護者と連携して指導する。 ・「寧楽Ⅰ」「寧楽Ⅱ」等の集団学習にスムーズにとりくめるよう指導する。 ・「道徳」の時間において、他者理解や豊かな自己肯定感をはぐむ授業実践を年間15回以上行い、その教材をデジタルポートフォリオとして蓄積する。		1・2年
			3・4年では、「65分」の枠組みを生かした主体的な学習を組織し、総合的・応用的な学力への飛躍を目指す。	・対話を重視し、学びあい、高めあう学習集団づくりを進めるとともに、CG、AGなどを通じて、科目選択を含めたキャリア意識の涵養を図る。 ・SSH、国際交流、インターアクト事業をはじめとする課外の学習プログラムへの積極的な参加を促し、自らの知見をひろげる一助となるよう支援する。 ・成績不振者等に対し、学習習慣の確立のための支援を行う。 ・HRや道徳、各学校行事を通じて、「私」と「集団」「社会」との関わりについて考えさせる。		3・4年
10			5・6年では、個に応じた学習目標を明確にさせると共に、「65分」の枠組みを生かした質の高い学びをめざし、幅広い学力の習得を図る。	・中等教育において身につけるべき広い意味での学力の修得や教養の涵養のために、自主的自律的学習習慣を身につけるためのサポートや指導を行う。 ・成績不振者を支援するとともに、学習意欲の高い生徒に対しては、的確な学習の場を保障する。 ・HRや各学校行事を通じて、「私」と「集団」「社会」との関わりについて考えさせる。		5・6年
11			ユネスコスクールとしてESDの理念をふまえて、総合学習の実践を深める。	・1・2年「寧楽Ⅰ」「寧楽Ⅱ」では、世界遺産学習をふまえて実施する。 ・3・4年では、ESDの理念に基づく「世界Ⅰ」「世界Ⅱ」を実施する。 ・レポート作成やフィールドワーク、プレゼンテーション能力等のスキル向上を図る。		1-4年 教育課程委員会 総合担当

12		<p>新校務システムの適切な運用を図り、生徒の成績管理を行い、進路指導につながる積極的活用を図る。またPC教室の機種更新をうけて、ICT教育の推進のための環境及び校内ネットワーク体制を整備する。さらに、読書活動および図書室活動を充実させる。</p>	<p>・新校務システムを活用して、生徒の成績管理を行い、進路指導に活かすデータの蓄積、連動を実現する。 ・機種更新されたPC教室の運用管理をし、ネットワーク利用の新たなシステムを構築するとともに、ICT機器の授業での効果的な活用を支援する。 ・図書室を学習・情報センターとして、学習支援を行う取り組みを行う。 ・学年と連携しつつ、読書タイム(年5回)を、生徒とともに工夫をして実施する。 ・教職員や生徒の情報に関するスキルやリテラシーの向上を図り、授業やグループワークにおけるipad活用等、ICTの利用促進の取組と支援を行う。</p>			<p>図書情報 教務 学校経営委員会 各教科</p>
----	--	--	--	--	--	---

[4] 教育研究・実習計画(大学、附属学校園連携を含む)

中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策			担当部署
13	<p>大学と連携し、先導的な中高一貫教育についての教育研究を行う。 【4-2-12】</p>	<p>新学習指導要領と新大学入試の方向性をにらみつつ、本校のアドミッションポリシーと21世紀型学力形成の課題をふまえ、それに基づく新カリキュラムを作成する。</p>	<p>・基本理念、教育目標をもとに、カリキュラムポリシーを確定し、2020年度の新カリキュラム実施に備える。 ・カリキュラムマネジメントの下、探究活動を主軸とした新たなカリキュラムを策定する。 ・専門家の支援を受け、3学期制の特長を生かした、定期考査に依らない評価のあり方について、研修と議論を進める。 ・新学習指導要領や新大学入試システムの情報収集のために、他校訪問や研究会への参加を積極的に行う。</p>			<p>学校経営委員会 教育課程委員会 教務部</p>
		<p>PICASO運営企画室と連携し、課題研究活動を軸とした「PICASOプログラム」の教育的実践を進める。</p>	<p>・高大接続文理統合探究コースを新たに設置し、高大接続カリキュラム開発プログラムに基づくポートフォリオ入試の準備を進める。 ・「PICASO」プログラムの1年目を着実に実施しつつ、2年目のプログラム開発を推進し、中等教育後期課程のカリキュラムの充実を図る。</p>			<p>学校経営委員会 教育課程委員会</p>
14		<p>理数系教育の充実を図り、SSHプログラムを実践する。また、サイエンス研究会の活動をサポートする。</p>	<p>・第3期SSH研究の5年目の計画を確実に実施し、15年間の研究開発の総括を行うとともに、第4期SSH研究開発申請の準備を進める。 ・サイエンス研究会の活動環境を整備し、各種学会、研究会への発表活動を支援する。</p>			<p>学校経営委員会 新SSH構想WG 研究部</p>
15		<p>ユネスコ・スクールおよびSSHのネットワークを中核として、グローバル教育をめざし、国際交流事業の体系化を図る。</p>	<p>・グローバル人材の育成を視野に入れながら、高校生国際会議「Asian Youth Forum」(台湾)を中心に、アジア諸地域の生徒との国際交流活動を進める。 ・「さくらサイエンスプラン」の指定を受け、科学技術ワークショップNara Sakura Science Campの企画実施を行う。 ・学校経営委員会と連携しながら、国際交流に関わる諸事業の業務の整理と見直し作業を継続し、新たな国際交流の枠組みを構想する。</p>			<p>学校経営委員会 研究部</p>
		<p>公開研究会を実施すると共に、研修会のあり方を検討し、新たな研修体制を構築する。</p>	<p>・学校改革にともなうテーマを中心に教員研修のあり方を見直し、教員同士の学びあいを図る研修方式をとりいれる。 ・大学と連携し、全国的な教育研究・教員研修の拠点として、また本校教員の教育研究活動を活性化できる公開研究会の企画を構想し、あわせて外部評価を受ける。</p>			<p>学校経営委員会 教育課程委員会 研究部</p>

17	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・理系女性教育開発共同機構及び附属学校園、教育システム研究開発センターと連携しつつ、先導的な中高一貫教育を実践する。大学と共に、高大連携特別教育プログラム等を推進する。【4-2-11】 	<p>中高一貫教育の成果を発信するとともに、教育システム研究開発センターと連携し、接続教育・一貫教育の推進に寄与する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育研究会の活動を支援し、成果を全国に発信する。 ・奈良女子大学教育システム研究開発センターと連携しつつ、本校のリベラルアーツ教育研究・実践をはじめとした各教員の研究活動の充実を図るとともに、本校「紀要」や大学「教育システム研究」に積極的に論文を投稿するなど、外部に対してその成果を発信するように努める。 			研究部 学校経営委員会
18		<p>理系女性教育開発共同機構と連携協力し、女子高校生の理系進学を促進するための指導方法の研究に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共同機構と連携し、教科横断型の理数プログラムを公開し、科学技術イノベーションに寄与する学修法を提言する。 ・大学共同機構と連携し、女子生徒に理系に興味を持たせる中高授業の指導方法開発に取り組み、その成果を公表する。 			教務部 研究部 学校経営委員会

[5] 安全及び健康に関する計画

中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策			担当部署
19	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生管理、情報管理体制を整備し、防災・防犯教育を進める。特別支援教育を定着させると共に、健康相談体制を強化する。【4-2-15】 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働基準法改正をうけ、勤務時間の適性化にむけた具体的な施策を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・残業時間の上限規制を周知徹底する。 ・部活動を含む休日労働のあり方を新たに構想し、適正な労務管理を実施する。 ・行事設定・会議運営の改善策を検討し実施する。 			安全管理委員会 学校経営委員会 健康環境
		<ul style="list-style-type: none"> 「危機管理マニュアル」の周知を図ると共に、防犯・防災教育に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に対応できるよう、学校経営委員会を中心に、安全対策上必要な改善を進め、危機管理マニュアルを更新する。 ・防災・防犯訓練及びAED研修を実施する。また、地域の避難拠点としての対応マニュアル策定に向けて検討するとともに、地域との連携を図る。 ・薬品管理システムを適確に運用し、薬品管理を確実に実施する。 			安全管理委員会 学校経営委員会 健康環境 生徒指導
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒相談事業を継続すると共に、特別支援教育の校内体制を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・健康環境部・特別支援教育コーディネーターは、新しい内規に基づいた支援の体制について検討し、実施する。 ・教務部・学校経営委員会と連携しつつ、学習支援を行えるように、新しい内規に基づいた具体的な支援体制を構築する。 ・保健室とカウンセリング室の機能分化を図り、特別な支援が必要な生徒に対してのより適切な支援体制を整備する。 ・障害者差別解消法の制定に伴い、学校に義務づけられる「合理的配慮」について、適性検査時の対応を含め具体的な措置を講ずる。 			管理職 特別支援教育委員会 健康環境
21		<ul style="list-style-type: none"> 附属学校部コーディネーター、スクールカウンセラーや専門家の指導助言のもと、総合的な見解に基づいて、個々の生徒の「困り感」を理解し、その状況に応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会において、附属学校部コーディネーター、スクールカウンセラーや専門家の指導助言をもとに、個々の生徒の「困り感」を理解し、その状況に応じた支援を行う。 ・必要な生徒に個別の「教育支援計画」を作成し、有効に活用する。 ・新しいスクールサポーター(19年度から)やスクールアドバイザー(18年度から)・外部機関と連携して、生徒の状況に応じた支援をする。 			管理職 健康環境 教務

22		「いじめ防止基本方針」に基づききめ細やかな指導を徹底し、いじめ防止のための対策を行う。	・いじめ防止対策会議の月例化を続け、いじめ事案の事後の見守りを図ることで、その解消にむけての取り組みを「見える」化する。 ・「アンケートの年2回実施」に加え、定期的な個人面談期間の設置、「教育相談窓口」の広報など、いじめの早期発見のための措置をとる。		管理職 特別支援教育委員会 健康環境 生徒指導
----	--	---	--	--	----------------------------------

Ⅱ 経営に関する目標・計画

[6] 学校運営計画

中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策		担当部署
23 国立大学法人附属学校として、大学と連携した学校マネジメントを推進する。	・附属学校部の指導のもと、法人化に基づく、各種計画・評価システムの実施、財務・労務改革、施設整備、安全対策等を推進する。 【4-2-14】	第三期中期計画に伴う学校経営全般の基盤整備に関わる諸課題に取り組む。	・第三期中期計画に対応した校内組織の体制を構想し、学校運営の改善を迅速に進められる体制にむけたプランを策定する。 ・奈良県や奈良市、附属学校間の人事交流制度を運用するとともに、連合教職大学院と連携してストレートマスターのみならず現職教員の生涯にわたって学び続ける教師像のモデルを構築する。 ・スポーツ庁の「ガイドライン」に従い、本校の部活動のあり方の再検討を進めるとともに、生徒・保護者との意見交流を行う。 ・新しい学校経営・分掌組織・特別支援体制に対応する内規の整備を進める。 ・業務効率化の一環として、入学適性検査のWEB出願について検討を加える。		管理職 学校経営委員会
		第三期中期目標期間における評価に係る実施要項に基づき、第四期中期目標・計画の策定に向けて諸課題に取り組む。	・地域の高等教育機関との連携を視野に入れた附属学校のあり方を構想し、提言する。 ・有識者会議報告を受けて、奈良女子大学附属学校園マスタープランを検討し、学校改革の方向性を明確にする。		管理職 学校経営委員会
		第三期中期計画の財務計画・施設整備マスタープランを策定する。	・第三期中期計画を見通した人件費を含む財務計画の方向性を示す。 ・産学連携やダイバーシティ化の推進など外部資金確保に努力するとともに、新施設整備マスタープランを策定する。 ・再雇用制度の運用方針に基づき、再雇用を適正に進めるとともに、適正かつ継続的な人事配置を実施するための運用方針を模索する。		管理職 学校経営委員会
		第四期中期目標・計画策定に向けた学校経営全般のプラン策定に取り組む。	・奈良教育大学附属学校園との連携を図り、第四期中期目標・計画策定に向けたすり合わせを行う。 ・一法人複数大学の附属学校園としての特色を明確にし、附属学校の新たなあり方を提言する準備を進める。		管理職 学校経営委員会
24					
25 機能的な学校運営を行うと共に、教職員の職能向上に努める。	・教職員の同僚性(職業倫理に基づく協力体制)を強化し、学校運営体制の改善を図る。また、人材育成プログラムを確立する。	教員間の意思疎通の円滑化を図るため、学校運営・教員組織の在り方を協議する。	・職員会議や教員組織、各種会議の円滑な運営を図るための改革を行う。 ・「低学年職員室」設置の意義を検証しつつ、「大職員室」設置に向けた全体構想を提起し、学年組織の改革および個々の分掌業務の統合や効率化を進めるとともに、教職員の働き方改革に資する、学校の新たなシステムを検討する。 ・副校長は、教員のストレスマネジメントに努めるとともに、新任教員や困難な事情を抱える教員を支援する。		管理職 学校経営委員会

26		校長裁量経費を活用し、研修を推奨する。また、専修免許取得、大学院リカレントを推奨する。	<ul style="list-style-type: none"> ・免許状更新講習等を円滑に進めるとともに、<u>連合教職大学院の支援を得て、新任教員や中堅教員教員の資質向上のため研修のあり方を改変する。</u> ・<u>連合教職大学院との連携の下、公立学校現職教員のリカレント研修に資する枠組みを検討し、公教育に資する附属学校のあり方を提言する。</u> ・<u>第3期SSH事業の成果を、次なる研究開発につなげられるよう、研究部の体制の再構築を含め、学校運営のあり方を見直す。</u> ・<u>科研費の応募を基本的に義務付けるとともに、科研費応募者に対して校長裁量経費によって支援する。</u> 			管理職 学校経営委員会
----	--	---	---	--	--	----------------

[7] 情報公開、社会貢献に関する計画

	中期目標	中期計画	2019年度計画	計画達成に向けての方策		担当部署
27	社会と世界に開かれた学校づくりを進める。	・保護者・同窓会との連携を強め、学校の基盤整備を行う。また、各種情報の公開に努める。	各種情報の発信に努めるとともに、オープンスクールや各種説明会を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>入学適性検査の改訂に伴う検証を実施しつつ、適正な検査のあり方を検討する。</u> ・<u>オープンスクールのやり方を刷新し、保護者ボランティアの活用や塾説明会との統合により、業務効率化を進める。入学適性検査説明会を継続し、入学適性検査結果や解答例、配点・採点基準の公表を継続する。</u> ・<u>Webサイトをリニューアルし、保護者、生徒のニーズに合った広報活動を充実させるとともに、同窓会とも連携して情報提供できる仕組みを構築する。</u> 		学校経営委員会 事業広報 情報管理委員会
28			学校評議員会をはじめ、PTA・教育後援会、同窓会と連携し、開かれた学校運営をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学校評議員会、関係者評価委員会のあり方を再検討し、コミュニティスクール型の学校運営を模索する。</u> ・<u>学校改革の方向性について、保護者を含めて議論する場を設定し、開かれた学校づくりのモデルを示す。</u> ・<u>同窓会やPTA、教育後援会の協力を得て教育環境の充実を図る。</u> ・<u>東日本大震災に対する支援委員会において、引き続き必要な支援を行う。</u> 		管理職 事業広報